

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めの職員会議、及びユニット会議にて理念の説明をおこなっている。 グループホームの目標は入居者様、職員がともに見えるように展示している。	法人の理念を基に地域密着型サービスの意義や役割を考え、管理者と職員とで話し合いをもちながら事業所としてのケア目標を作成し、各ユニット内に掲示して日々全職員の目に触れることにより、具体的なケア目標について確認し合いながら日々のサービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会費を納入し回覧物が配布されたり回覧をお願いしている。外気浴や散歩のときには声を掛けて下さる。また、採れたばかりの野菜を届けてくださる。施設行事では、地域の方々と入居者が一体となり盛大に行われている。	回覧板でお互いの行事の開催を知ることが出来、折々の行事に参加し合う機会は多い。近くの小学校からは元気な児童の声も聴かれ、運動会には利用者も参加できる種目もあり、児童と共に生き生きと活動している。また散歩の折には近隣の方々が声をかけてくれたり採れたての野菜を届けて下さる等、日常的に地域の一員としての付き合いを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元も中学生などの体験学習やボランティア活動の受け入れを行っている。 介護予防拠点を開放し、体力づくり支援センターの『高齢者に対する運動』などに使用してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回継続し開催している。事業実施状況など報告したり、行事の予定などお知らせしている。ボランティアのお誘いなども行ったり、事業所への要望などもうかがっている。	運営推進会議は定期的で開催されており、事業所の状況報告や情報交換のみにならず、メンバーから質問、意見、要望を受け双方向的な会議となっており、頂いた意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括の職員から毎回参加してもらっている。意見やアドバイスを頂き現状を聞かせて頂いている。	市担当者、特に包括支援センター職員とは運営推進会議の折にも事業所の実情やケアサービスの取り組みについて伝えたり、不明なことがあれば意見やアドバイスを伺いながら、日ごろから何でも相談できる協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勤務上可能な職員は積極的に法人内の研修会に参加し、参加出来ない職員に向けユニット会議で復命研修を行っている。現在も身体拘束及び施設での施錠は行っていない。	職員は法人内の研修会に積極的に参加し「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について学び理解している。参加できなかった職員には各ユニット会議で復命研修を行い、職員全員への理解浸透に努めている。気づいた時にはお互いに声をかけ合いながら抑圧感のない自由な暮らしを支えている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修会に参加している。全員の参加は無理がある為、ユニット会議で復命研修を行っている。日常のケアや言葉遣いが虐待へと繋がらないよう十分注意をしている。	職員は法人内での研修に参加し「高齢者虐待防止法」について学ぶほか、ユニット会議でも学ぶ機会を設けている。また管理者やリーダーは虐待が見過ごされることがないように職員の様子を伺いながら声をかけ、疲労やストレスが蓄積されないよう声をかけたり、相談事に対応している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勤務上可能な職員は法人内研修に積極的に参加し参加できない職員に向けユニット会議で復命研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に契約書や重要事項説明書の説明を行っている。自宅訪問もさせて頂き、入居される上での不安や疑問にお答えしている。契約時には更に詳しく説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には苦情窓口設置や意見箱の説明を行っている。ケアプラン作成時はもちろん日頃からご家族様との連携を図り要望や意見を伺っている。伺った要望や意見は連絡ノートやユニット会議で検討し情報共有を図っている。	毎月の利用者状況の報告時の機会や家族面会の折には何でも話してもらえる雰囲気づくりに努め、意見を伺ったりアンケート調査の中でも意見や要望の把握に努めている。伺った意見や要望はユニット会議で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員全員参加のユニット会議や人事考課面接の機会に意見を聞くようにしている。様々な意見は毎月のユニット会議に報告し、その内容はユニット会議で職員に伝えている。	毎月全員参加で行われるユニット会議の開催時には、隣のユニット職員から介護に入ってもらおうなど、利用者の生活に寄り添ってもらうことで、職員が安心して会議に参加出来る体制整備を図っている。また会議で出された意見や要望を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の定める就業規則や給与規定に基づいて運営している。人事考課制度に取り組み自己目標を掲げ、向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や施設内の研修は定期的に行われ、職員は参加している。その後ユニット会議で復命研修を行っている。新人職員には法人で100日プログラムを行いサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協議会・新潟県認知症高齢者グループホーム協議会・魚沼地域グループホーム連絡会などに加盟している。研修会で他施設の職員と交流する機会があり、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から各種機関からの情報収集を行っている。事前面接ではご本人、ご家族様の意見を伺いプラン作りに活かしている。また、施設見学に来ていただいた際は丁寧に説明し、安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様の不安や要望などには耳を傾け、施設側からの一方的な説明とならないようにしている。ご家族様との繋がりを大切にし、安心していただけるような関係作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅介護支援事業所やご家族から情報収集を行い、入居検討委員会で入居が適切か検討している。ご本人やご家族の意向を伺い、適切なケアを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来る事と出来ない事を見極め、ご本人の意思を確認しながら職員とともに家事を行っている。役割を持った生活や入居者同士や職員との会話を含み、お互いを尊重した対応を心掛けている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診などはご家族にお願いしている。日々の様子は月一回の手紙や面会時に報告したり相談している。また、体調の変化があった際は直ぐに電話で連絡している。	日々の暮らしの様子を毎月手紙や面会時にきめ細かく報告したり、相談事にも気軽に応じている。また、通院は家族の役割との理解をいただき協力を得ている。加えて体調変化時にはすぐに連絡する等、共に本人を支えていく関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のかかりつけ医を継続して頂いている。行きつけのお蕎麦屋さんへの外食を楽しみにされている入居者様もいる。面会者も多く祭りやお盆に外泊される入居者も多い。	在宅生活の延長線上にあることに配慮して、かかりつけ医の継続や行きつけだった蕎麦屋での外食を楽しんでもらったり、お盆や夏祭り、自宅外泊、行きつけの美容室の利用等、馴染みの人や場との関係が途切れないよう継続的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	憩いの空間を作り、入居者様同士が談笑しやすい場となるよう考慮している。そこでは会話が弾み笑顔が見られている。すでに馴染みの関係が築かれており、共同作業は賑やかな時間となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族の相談に応じたり、他事業所や医療機関の地域連携室などへは情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から希望や意向の把握に努めている。聞き取りが困難な方に対してはご家族から思いを聞いている。意向についてはユニット会議で情報を共有し、実現できるように検討している。	事前面接や介護計画作成時のアセスメントで生活歴や個性、価値観についての情報を得ると共に、日ごろから利用者の言動にも配慮し、その表情や仕草なども観察しながら思いや意向の把握に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から生活歴や生活習慣・環境について情報収集をしている。また、入居前の担当ケアマネから話を聞いたり、自宅の訪問もしている。	入居前には自宅訪問し、本人、家族、前事業者からも情報を得て、本人の馴染みの暮らしについて把握すると共に、日々の会話や行動の中からも、これまでの暮らしや習慣等を把握して本人への理解を深め、個々に合わせた対応を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを作成することで、一人ひとりの一日の過ごし方が把握しやすくなった。日々の生活の様子や健康状態は24時間シートに添って記録し、職員間でも申し送りをして情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を確認し、ユニット会議で課題や支援方法を検討しながら、現状に即した介護計画を作成している。	関係スタッフでミーティングを行い、本人、家族の意見を踏まえた上で、本人に最も必要と思われる支援について検討し、計画書を作成している。状態の変化が生じたときには職員間で話し合いを持ち状況に合ったプランを見直し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録に記入している。また、申し送りや連絡ノートを活用して情報の共有に努めている。日々の記録を基にモニタリングや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応する為、業務に縛られることなく、業務内容や勤務時間を変更しながら臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方から畑を借りて入居者と一緒に野菜を育てている。また、地域行事への参加やボランティアの受け入れをすることで、地域の方々と触れ合う機会を増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前と同じかかりつけ医を受診している。受診は家族が付き添い、状態の変化等は家族や書面や電話で医師に伝えている。緊急時は職員が付き添っている。	かかりつけ医は入所前からのかかりつけ医を継続し、通院は原則的に家族同行となっている。家族の都合のつかない場合は職員が付き添っている。受診前は受診ノートで家族に本人の状況を伝え、受診後は家族から結果を得て情報を共有している。緊急時は協力訪問看護ステーションへ連絡し情報把握に努め、状態に応じて必要時は連携医療機関へ連絡し指示を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと24時間オンコールで連携している。また、週1回は施設に訪問して直接見てもらっている。相談やアドバイスはその都度できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に必要な情報を提供している。入院中はご家族や病院関係者と連絡を密にしている。退院時は施設での生活のアドバイスや注意点を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤化した際のグループホームでできることとできないことについて説明している。また、状態が低下してきた場合は家族と相談し、法人内の他事業所とも連携してスムーズに住み替えができるようにしている。	重度化した場合には職員、家族と話し合い、事業所として出来る限りの対応をこころがけている。医療機関、法人内の他施設とも連携を図りながら支援に努めている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内や施設での研修に参加している。また、緊急時のマニュアルが整備されており、マニュアルに添った対応ができるように統一を図っている。	急変時や事故発生時に備えてマニュアル、緊急連絡網を作成することで早急に対応できるようにしている。また職員が法人内研修に参加し緊急時対応の共有化を図るなど、日頃からの意識統一を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。その他にも防災訓練を実施し、防災機器の説明や消火訓練等も行っている。地域のかげつけ人もおり、協力体制ができています。	年2回、消防署の協力の下、日中・夜間想定した避難、通報、消火訓練を行っている。その際には地域の協力を呼びかけ参加協力をお願いしている。また、災害時に備えて食料品等の備蓄も十分確保されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した対応を心がけている。慣れ合いの言葉にならないように気をつけ、名前を呼ぶ時は名前で呼ぶように統一している。	利用者の誇りを傷つけないように、一人ひとりの性格や状態に合わせた声掛けを工夫している。表情の変化や何気ない言葉をキャッチし本人の気持ちを尊重している。一人ひとりのペースを大切に、プライバシーを損なわないように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを十分に取り、思いや希望を表しやすいように努めている。表現が上手くできない方に対しては、表情や動きを見ながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間シートに添った対応をしているが、その時々気分や状態の変化に合わせて柔軟に支援している。レク活動等は声かけはするが、参加は本人の意思に任せている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でできる方はご家族から希望の道具を用意してもらって行っている。化粧道具や衣類を職員と一緒に買いに行くこともある。ご自分でできない方に対しては清潔に配慮し、身だしなみを整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に食べたい物を聞きながら献立を立てている。なるべく季節の食材を使うように配慮している。また、食事の準備や後片付けも個々の力に合ったものをお願いして一緒にやっている。	利用者の希望、意欲、能力に応じて、食事準備や片付け等を職員と一緒にやっている。畑で採れた旬の野菜を使い献立を工夫することで季節感を大切にしている。時には利用者の希望で外食に出たり、出前の希望に応じたりして食への楽しみを高めてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えて献立を立てている。その人に合った食事形態や状態に応じて補食等、臨機応変に対応している。毎日食事量や水分量を記録し、体重の変化にも注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの生活習慣に合わせて支援している。なるべくご自分でできるように声かけや見守りをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援が必要な方に対しては排泄チェック表を記入しながら排泄リズムやパターンを把握するように努めている。必要に応じて声かけや誘導を行い、失敗を減らすように支援している。	その人に応じた排泄パターンを把握しながら自然に声掛けできるよう心がけている。また利用者それぞれの援助方法に配慮しながら、排泄の自立に向けた支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に合わせて牛乳や食物繊維・オリゴ糖、下剤を使用している。また、排泄チェック表に排便の有無を記入し、便秘の状況を把握できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決めずに入浴している。希望がない場合は入浴状況を確認しながら声かけをしている。同性介助等、一人ひとりの希望に対応すると共に、季節の湯等も行い楽しんで頂けるようにしている。	利用者の習慣、希望に合わせて入浴してもらっている。温度調整、入浴時間等、利用者の好みに応じた支援を行うと共にゆったりと入浴を楽しめるよう心がけている。入浴がリラックスタイムとなるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが自由に居室に戻って昼寝や休息を取っている。ご自分で休めない方に対しては意向を聞いて支援している。個々に合わせた室温や照明、また使い慣れた枕や布団を持って来ている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の薬カードは個々のファイルに綴じてあり、いつでも確認ができるようにしている。服薬支援はマニュアルに沿って行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや張り合いになることが違い、その人に合った支援を行っている。外出の時間を確保できるように力を入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の買い物や散髪、その他、希望を聞きながら季節に合った場所に出かけられるように支援している。ご家族とも連携して、自宅に泊まりに行く方もいる。	日常的な散歩は職員が付き添っている他、季節の行楽には家族や地域の協力を得ている。利用者の心身状態や天候等を考えながら散歩など戸外に出て外気や様々な刺激に触れる機会を設けている。季節に合わせた場所や利用者が親しんできた場所への外出時は特に生き活きとした表情が窺える。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で金銭管理されている方もいる。買い物の際に使用し、職員は見守りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話をかけたり、電話があった時には取りついでいる。遠方の方から手紙やハガキが届くこともあり、返事が出せるように職員が支援している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境班を中心に居心地のよい空間になるように整備している。季節の花や飾りつけをすることで季節を感じて頂いている。また、リビングからは四季を感じられる景色が広がり、のどかな環境になっている。	共用スペースの大きな窓から見える外の田園風景は季節感あふれる環境にあり、南向きで光が差し込むホーム内は適度な明るさが保たれている。行事の写真や季節の花の飾りつけ等が丁寧に工夫されている。また環境整備だけでなく温度、湿度管理も配慮され、利用者、職員が協力しながら気持ちよく過ごせる環境作りに取り込んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやテーブルで気の合う人同士で話をされている。天気の良い日は窓側や廊下の突き当たりスペースで日向ぼっこをされている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトはご本人や家族と相談し、ご本人が使いやすいようにしている。また、持ち込みの家具等は制限せずに、できるだけ使い慣れた物を持って来て頂けるように声をかけている。	各部屋にはベット、エアコン、整理ダンスが設置され、トイレや洗面所も設置されている。また、利用者の希望を聞きながら自宅で使用していた家具や家族の写真、思い出の品々を持ち込むことも可能であり、自宅に近い環境で不安なく生活してもらうよう支援に努めている。家族が宿泊できるスペースもあり、部屋の清掃は職員が行っており、清潔が行き届いていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には障害になる物は置かず安全に移動ができるようにしている。また、手の届く位置に炊飯器やお茶道具、物干し等を置き、自立した生活ができるように支援している。		